

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階さつき)

事業所番号	2771602311		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	ケアポート大阪西吹田センター グループホームやすらぎ		
所在地	大阪府吹田市出口町17-33		
自己評価作成日	令和6年11月7日	評価結果市町村受理日	令和7年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

NTT西日本グループ会社として事業運営しているグループホーム(2ユニット)です。施設の周辺には、公園、福祉会館、図書館、保健所等があり、利用者様が気軽に外出し、地域の人々とも交流ができる環境があります。
24時間365日の医療連携体制を整え、重度化された場合においても、利用者様、家族様の意思を尊重したサービスが提供できるように努めています。感染症対策、身体拘束対策、虐待防止対策、非常災害時の対応等の対策委員会を立ち上げ、研修、基本的予防策の徹底に心がけています。また、認知症の人のその人らしい暮らしのために適切な認知症ケアを提供できるよう、チームケアを実践し、BPSDの予防、軽減、再発防止を目指し、ケアの質の向上に日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームやすらぎの運営母体はNTT西日本のグループ会社で、西日本に7か所の福祉施設のほか多角経営を行っている。当事業所はデイサービスと訪問介護を併設し開設20年を迎えた。今秋館内の全面リニューアルで内装や設備を一新し、浴室も拡張のうえ入口が広くなり、新しく導入したリクライニング式のシャワーチェアが操作しやすく、職員や利用者により好評である。職員と管理者及び所長との連携が良く、働きやすい職場環境で永年勤務の職員も多い。他施設から転入の対応が難しい利用者にも、事業所では危ないからなんでも触らないようにしたり、隠してしまうのではなく、行動を見守りながら自由に過ごせるように支援した。その後利用者は落ち着きを取り戻し穏やかに過ごすことができている。事業所は利用者の尊厳を大切に、笑顔で過ごせるようチーム一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全・信頼」をモットーに常に真心と優しさで利用者様に接し、「明日もここで過ごしたい」と思って頂けるサービスを提供いたします」を基本理念とし、更にはグループホームの事業方針をも定め、理念をフロアへ掲示している。又意識付けをするためにカード形式の基本方針、理念をスタッフが携帯し、利用者様が安心して地域で生活が送れるよう、スタッフと一体となり共有を図っている。	法人の理念を各フロアの玄関に掲示し、地域の人達にも分かるようにパンフレットに記載している。理念とは別に職員で相談して決めた「私たちは笑顔を忘れません」を事業所の目標として、職員はいつも名刺サイズに印刷された理念や目標をポケットに携帯して日々の業務に取り組んでいる。利用者が安心して笑顔で過ごせているか日々話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所連絡会や夏祭りへの参加等地域住民との交流にも積極的に参加している。地元の夏祭り参加にも準備段階から関わっている。	事業所周辺は図書館や保健所、福祉会館、公園などがあり静かな環境で事業所の立地としては恵まれているが、地域との交流の難しい地域である。その中でも地域で開催される夏祭りの実行委員として参加したり、事業所の駐車場を解放したりして、少しでも地域との関わりが持てるように努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	吹田市の地域福祉委員会、民生委員の報告会等へ参加し、認知症への理解、又地域の支援サポーター活動へ活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は会則に沿って2ヶ月に1回開催している。利用者様の状況報告や意見交換、検討事項やその後の経過報告を話し合いサービスの向上に向けて、日々取り組んでいる。他のグループホーム運営推進会議にも参加している。	奇数月の日曜日に地域包括支援センター職員、家族、近隣のグループホームの管理者、事業所の職員で運営推進会議を開催している。議事録には事業所で行った研修のレジメや、個人は特定できないようにしてケアについて話し合われたことが詳細に記されている。議事録は全家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員との定例事業者部会に参加し意見・情報の交換・相談等の話し合いに取り組んでいる。	グループホーム部会や施設連絡会に参加し、市の介護保険課から情報の収集を行っている。介護保険の申請や、介護中の事故があった場合には報告書を提出するため市役所に出向いている。コロナ禍以降対面での研修は減っているが、市が主催するオンライン研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等対策委員会(3か月毎)を開催し安全に配慮しながら身体拘束をしないケアを実践しています。(研修年に3回開催) 玄関は施錠していますが、利用者様が外出されそうな様子を察知したときはスタッフと一緒に外出するなどし、自由な暮らしを支えるようにしている。	身体拘束対策委員会を3ヶ月ごとに開催している。指針とマニュアルを整備し、年3回研修を実施している。「ちょっと待って」など言葉による抑制や身体拘束では無いが不適切なケアがあった時には、直ぐに職員に気づきを促すようにしている。職員がストレス軽減できるよう面談の機会を作ったり、働きやすい環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる可能性のある日々のケアで虐待となる可能性のあるケアについて、介護スタッフ間で話し合いの機会を持ち情報共有を行い、虐待防止に努めている。又、虐待防止検討委員会を立ち上げ、高齢者虐待防止について、研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護スタッフの勉強会等を通じて基礎的な知識を習得させるとともに、今後、同制度を必要とされる家族様への活用に積極的に繋げていくこととする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、契約書・重要事項説明書を基に説明し、不安や疑問について納得いくまで話し合い、納得を頂いたうえで入居手続きを開始している。締結改定等も同様に納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	より良い施設運営を目指し、行事等の報告を、やすらぎ新聞や運営推進会議結果報告を通じて行っている。家族様の来訪時には、スタッフから積極的に利用者様の状況を報告して意見を聞くようにしています。又、玄関に意見箱を設置して、いつでも意見を出せれるようにしています。	利用者の様子や訪問診療の結果を伝える時、家族が面会で来所した時には意見や要望が気軽に言えるよう信頼関係の構築に努めている。「運営推進会議を日曜日にしてほしい」「職員が交代した時は紹介してほしい」と要望があり、運営推進会議を日曜日開催し、職員が交代した時には家族に挨拶するよう徹底した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやスタッフ会議、レク会議、安全推進会議、施設内勉強会を合同で行っている。又、所長が年2回個別面談を行い、意見や要望を聞き、施設運営に反映している。	毎月行われる会議で利用者のケアの事や業務改善について話し合われている。年2回所長が個別に面談をして職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。浴室の入口が狭くシャワーチェアへの出入りがしにくいとの意見があり、今秋に行った館内全面改装の時に入口を広くし、職員から喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や成果・実績について事業評価、或いはスキルアップ賃金加算制度を導入し、熱意と向上心を持って業務が行える環境整備に努めている。又、労働条件についても、労働基準法を遵守し、働き甲斐のある職場環境への整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会や外部研修の機会を定期的に設けスキルアップを図っている。又、自己評価シートを作成し、日々のケアの中で困難に感じる事があれば、その都度ケーススタディとして議論し、技術や知識の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市の民生委員、福祉関係者、地域の他事業者連絡会、交流会に参加している。又、事業者との勉強会や見学を通じて、サービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が安心、安全に日々を過ごせるように、思いなどを傾聴し、汲み取るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、家族様の思いや考えを傾聴し、真摯に受け止め、信頼関係が気付けるように努めている。又、面会に来られた際も、意向の確認を行うとともに、日頃の様子を伝え、信頼関係が築ける様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様のニーズは、何かを把握し、専門的な立場から見た必要な支援について、検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩、ともに暮らす生活者として、日頃から話を傾聴し、信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、利用者様の状況を報告し、相談している。 花見や母の日など、季節行事の際、散策を行い、交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で交流があった方や親戚の方が来られた際は、これまでの関係が維持できるように努めています。また、家族様や親戚の方の電話が来た際も、利用者様に繋ぎ、話ができるように支援している。	入居時に携帯電話を持ってきた利用者も自分では操作ができなくなり、職員が家族から電話やメールがきたときには話をしたり返信を手伝ったりしている。入居前に親しくしていた人と面会したり、家族と一緒に出かけするなど今までの関係性が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、食事の席などに配慮し、会話をしながら、楽しく生活が送れるように努めている。又、交流が難しい方は、スタッフが声かけを行ったり、間に入ったりしながら、孤立しないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等へ移動時は、利用者様の状況、習慣やケアの工夫、思いなどを伝え、その後も、家族様との関係を大切にし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りから、行動・言動・表情から意向の把握に努めている。困難な場合は、家族様から情報を得ながら意向の把握に努めている。 BPSD評価指標を活用し、利用者様の立場に立った支援ができるように、スタッフとケアについて話し合っている。	利用者様の日々の様子を観察したり、自分から「買い物に行きたい」「美味しいスイーツが食べたい」と話したことが実現できるようにしている。一緒に買い物に行ったり、糖분을控えないといけない利用者には糖分控えめなスイーツを探して提供している。事業所で活用している認知症の人の行動・心理症状を理解するための評価指標を用いて、思いや意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのサービスの利用状況を家族様、関係各所より、情報を得て、今までの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族様からの情報や日々の関りから、何を支援すればいいのかを見極め、現状を把握する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思疎通のできる利用者様、家族様の意向を聞き、反映させている。定期的なアセスメント・モニタリング・カンファレンスを行っている。カンファレンスでは、BPSD評価指標を使用し、スタッフとケアについて話し合っている。	長期目標期間を12ヶ月、短期目標期間を6ヶ月として介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、計画を継続するか変更するか判断する。入退院で状態に変化があった時は、その都度計画の見直しを行っている。介護計画は利用者をはじめ関わる人たちの意見を参考にして作成され、サービス開始までに家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や朝と夕の申し送りを行い、その日の状態や特別なことを申し送っている。日頃から、スタッフ間で情報共有し、ケアや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、歯科衛生士の口腔ケア、訪問看護等を受け入れている。また、音楽療法、趣味活動も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、公園等があり、桜や紅葉など散歩を行い、四季を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提供医による月2回の定期往診、状態変化時は、夜間でも提携医に往診を頂き、緊急医療対応を実施している。	入居時に、全利用者が事業所協力医の受診に同意し、内科月2回、歯科月1回の訪問診療と歯科衛生士、看護師は毎週1回来所し利用者の口腔ケアや健康管理に当たっている。従来のかかりつけ医に家族が通院同行するケースもある。利用者の急変時には、夜間でもかかりつけ医に往診を依頼するなど、万全の支援体制を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護により、利用者様の状態の把握を行っている。 身体の異常や問題点がある際は、状態報告、相談し、提携医への連絡や対処方法の支持を受け、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族様や入院先の相談員に入院中の経過を聞き、病状や退院後の対応について、医師や看護師、家族様と話し合う場を設け、話し合い、その結果を提携医へ報告し、関係づくりに努めている。 入院時には、医師の診療情報や介護サマリーで情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について家族様と施設で対応できる様に話し合っている。 ターミナルケアについて、利用者様の意思を尊重し、家族様の要望にも配慮した、チーム全体のケアを目標とし、提携医や訪問看護との医療連携を整え、支援に取り組んでいる。又、スタッフの研修も行い、チームケアが行えるように努めている。	重度化及び看取り対応に関する夫々の指針を入居時に利用者・家族等に説明している。終末期には、医師が家族等に説明のうえ納得が得られれば、看取り介護についての同意書を交わし、医療と介護チームで支援に当たる。職員研修を定期的に行い、看取り後にカンファレンスを行い職員のグリーフケアとしている。最近1年に2名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整え、スタッフの応急手当や医師、家族様への迅速な連絡対応ができるよう研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、災害対策訓練、業務継続計画に沿った研修を行っている。又、地元消防署と連携を行い、年2回の消防訓練を実施している。地域近隣の福祉会館や住民の方に協力体制を依頼している。 災害時の備蓄品を3日分備蓄し、ガスコンロやボンベ、発電機等も備蓄し、スタッフにも周知している。夜間を想定した火災訓練も実施している。(夜勤スタッフのみ)	高台にある事業所は、水災の心配は無いが小規模土砂崩れと火災対応の訓練を年2回(11・3月)実施している。2階リビングに続く陸屋根のある空地があり、火災時はここに水平避難し消防の救助を待つ。隣接グループ会社の応援も依頼済みで、向かいの福祉会館は福祉避難所でもある。BCP(事業継続計画)に合わせ発電機3台等の備蓄も直ぐ誰でも稼働できる場所に保管し災害対策万全といえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方などは、無理のない範囲で、摂取を促し、栄養補助食品などで、補っている。又、嚥下が悪い方は、その人に合ったとろみを調整し、提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。うがいが必要な方は、口腔スポンジにてケアを行っている。 月に一度歯科往診があり、必要な方は、週に一回歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔衛生管理に関わる助言を頂き、適切に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、利用者様の様子を見ながら、声掛けを行い、さりげなくトイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに沿い、または排泄のしぐさが見られれば、さりげなくトイレ誘導を行っている。現在、布パンツ常用者は皆無に近く、ほとんどの利用者がリハビリパンツにパッドを併用し、夜間は大きなパッドに切り替え、睡眠を重視している。寝たきりに近い利用者は、常時おむつを使用し適宜確認のうえ必要に応じ取り替えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様のペースや状況に合わせて、こまめに水分補給を促している。又、腹部の不快感がないか、不快にならない程度に腹部のマッサージを行っている。 週に一回、訪問看護にて腹音を常に確認していただいている。 提携医とも、便秘対応の相談をし、指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様一人ひとり合わせた、声かけや誘導の工夫をし、少しでも気持ちよく入浴して頂けるように努めている。 不調時や気分の優れない際は、日程や時間を改めるなどして、無理なく入浴して頂いている。	浴槽を跨げる利用者は独自で、跨げない場合は二人介助で湯船に浸かり入浴を楽しんでいる。また、今秋の館内全面改装で浴室の拡張、三枚扉の設置、1階浴室にリクライニングキャリーを導入し、重度の利用者も寝たきりの状態でシャワーを浴びることが出来る。赤ちゃん用沐浴剤を浴槽に入れ、介護に必要な効果を上げる工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間の座位や、同じ姿勢が続かないように配慮し、利用者様に一人ひとりに合わせ、臥床や離床を行っている。又、座位で過ごされている方は、浮腫を予防するため、両足挙上を行い、休息して頂いている。ベッド上でも、体位変換を行い、褥瘡予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際に間違いがない様に声出し、ダブルチェックにて確認し、確実に服用されるまで、見守りを行っている。又、目的、副作用、要望は、薬剤書にて確認し、症状の変化は、提携医に相談し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物など、出来ることに無理なく参加して頂き、感謝の言葉を伝え、自ら意欲的に手伝って頂ける様な雰囲気を作っている。食事は、一人ひとりのペースでゆっくり落ち着いて食べて頂ける様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、散歩に出かけ、季節の花を見たりし、気分転換を図っている。花見や夏祭りにも参加し、季節ごとの行事を楽しまれている。	コロナ禍前は、食堂・喫茶店、スーパーへおやつ等の買い物や近隣の大きく自然豊かな公園への散歩の機会も多くあったが、利用者の重度高齢化や職員の都合等で機会が少なくなっている。それでも希望があれば職員は外気浴や散歩に連れ出したいと考えている。家族の協力を得て外出等の機会が増えればと考える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、スタッフが行っている。利用者様より、希望があれば、スタッフと一緒に買い物に行き、好きなものを購入して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が連絡が取りたいと希望された際は、連絡が取れるように対応している。手紙を出してほしいと希望された際も、ポストに入れたりに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロアの明かりを調節し、生活感のある空間にし、利用者様や家族様が面会に来られた際に落ち着いて過ごせるように配慮している。 又、ソファを、随所に置き、利用者様の好みの場所で過ごして頂ける様に配慮している。	台所からリビングや全居室を見渡せ、明るく広々としたリビングにテーブル・椅子や2・3人掛けソファが幾つか置かれ、利用者が夫々寛げる工夫がなされており、利用者の落ち着いた穏やかな様子や寄り添った職員の姿も観られた。天井の照明の色にも事業者の配慮と工夫が見られ、共用部にはサンタ人形やクリスマスの飾りがあり、利用者に季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の一人ひとり合った、落ち着ける場所を作れるように環境整備に努めている。 又、気の合う利用者様同士の席を近くし、ゆっくり過ごして頂いたり、一人で過ごしたい時も、落ち着いて過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からは、公園の景色が眺められ、季節の移ろいを感じられ、落ち着いて過ごされている。又、写真や飾り物や思い出の品を置き、居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	入口に写真入り表札を掲げ、内側に独自の暖簾をつるした居室も多い。室内には予め設置された洗面台、収納、エアコン等に加え、利用者持込みの馴染みの備品、テレビ、家族写真等で、自分の城を演出している。壁の長押(なげし:ハンガー掛け)上部には、誕生日毎に贈られた色紙が並び、利用者が事業所で過ごした時の流れを感じさせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりに合った、安全な環境作りに努めている。各居室等に表札や飾りをし、わかりやすいように工夫している。 危険な物は、鍵のかかる場所に保管し、対応している。		